

(3) 平成 29 年度業務計画案

コンソーシアム参加機関・協力機関の募集を進める。基礎コースおよび応用コースに対し、教育プログラムを実施し、インターンシップや特別聴講生の制度を整備する。また、リサーチアシスタントについては各大学の規定と調整し、できる限り制度を整え、受講生に提供する。次年度の受講生の募集を行う。

a. コンソーシアムの構築

本年度も本コンソーシアムに参加を希望する大学を募集する。また、日本火山学会にコンソー

シウムへの参画を依頼する。また、海外フィールド実習や講義等に協力を得るため、海外機関へコンソーシアム参加依頼を行う。さらに、秋を目処に、国や地方自治体に参加募集をかける。なお、民間企業、学協会（災害情報学会等）のコンソーシアム参加については、引き続き依頼方法や公募について検討する。

b.教育プログラムの実施・整備

H28年度に作成した受講生便覧をもとに、基礎コース及び応用コースの授業科目を提供する。本プログラムの開校はH29年2月であり、また、プログラム開始の1年目であるため、募集時に意欲のある修士1、2年生、博士課程の大学院生も受講を認めた。そのため、H29年3月時点、あるいは、6月から9月頃にも履修状況を確認し、応用コースに進学する受講生を認める。修了要件を満たした受講生には、9月および3月に修了証（基礎コース、応用コース）を交付する。

・講義

各大学で実施されている火山学に関連する授業科目を受講生に提供する。また、コンソーシアム参加機関の開講科目の体系化に向けての検討を進める。

・火山学セミナー

社会科学に関する集中講義を2回程度実施する。また、火山噴火に関する数値計算法について集中講義を実施する。そのほか、最先端の火山研究に関するセミナーとして、次世代火山研究推進事業の研究集会、次世代火山研究・人材育成総合フォーラム、担当責任者の多くが参加する「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」（建議）の成果報告シンポジウムなどを利用する。

・フィールド実習（火山学実習）

9月上旬頃に、草津白根山において、地球化学および地球物理学に関する実習を中心に行う。
3月中旬頃に、霧島山あるいは桜島において地質・岩石学および地球物理学の実習を行う。
6月頃にイタリア国ストロンボリ火山で海外実習を行う。
そのほか、次世代火山研究推進事業の観測調査研究等をフィールド実習として位置づけ、受講生が最先端の観測研究を学ぶ実践的な場を提供する。

・遠隔授業

昨年度導入したWeb会議システムを利用し、開講されている大学院の講義および火山学セミナーを遠隔授業として提供する。ただし、Web会議システムは動作が不安定になる可能性もあるため、受講方法については受講生の不利益とならないよう、対策を講じる。

・テキストの作成

H28年度に実施する霧島フィールド実習についてのテキスト、及びマグマ挙動の物理的特性および火山観測の基礎をまとめたテキストの作成を行う。そのほか、各大学で実施している講義資料等をまとめながら、今後作成するテキストの検討を行う。

・インターンシップ

既存の国土地理院のインターンシップのほか、気象研、防災科研、産総研もインターンシップを整備し、受講生を受け入れる。また、受講生に地方自治体、国の機関、民間企業のインターンシップを紹介する。

・特別聴講生

コンソーシアムが実施する火山学セミナーについて、火山に関連する業務等を実施している社会人等へも公開し、特別聴講生の聴講ができるようにする。また、受講したことのわかる受講証を発行する。

c. リサーチアシスタント

各大学の規定等と調整を進め制度を整え、応用コースの受講生に対して、できる限りリサーチアシスタントとしての業務を提供する。

d. 受講生の募集

本プログラムはH28年度10月に開始したが、周知期間が限られたこと、コンソーシアム参加・協力機関の大学に新たな大学院生も入学することから、4月に若干名の追加募集を行い、基礎コースの受講生を補充する。また、H30年度基礎コースを開始する受講生の募集を11月に行う。